Beautiful Japan, Beautiful RiceIsland

回覧用

ライスアイランド

R. I. weekly レポート

123
〒500－8322
岐阜市香取町３－３８
電話 058（253）0310
FAX 058（252）5115
2005 年 11 月 21 日
vol.138 担当 島田

～シリアル・ルネッサンス～ http://www.riceisland.co.jp

菜の花プロジェクト～菜の花が世界を救う～

全国の一部市町村で菜の花プロジェクトで地域の活性化を目指す動きが始まっています。菜の花プロジェクトとは、石油などの再生不可能な化石資源に依存するのではなく、「菜の花」などを始めとする草や木などのバイオマス資源（生物由来の有機性資源）を活用した、再生可能なエネルギーを作り出す動きです。コンセプトとして、大量生産、大量消費、大量廃棄ではない地域の実情に合った循環型社会を、農業の分野だけでなく工業や、観光振興、教育などの他分野とも連携して形成しようとするものです。

始まりは、琵琶湖の水質汚染を防止するための「せっけん運動」を展開し大きな成果を上げた、主婦を中心とする消費者の会が始めた、せっけん作りに代わるあたらしいリサイクルの仕組みへの取り組みでした。注目したのが、ドイツでの軽油に代わる燃料としてナタネ油やひまわり油を活用するというプログラムです。それが農業と結びつき、原料となる菜の花栽培であり、そこで目を向けたのが生産調整で米がつくれない休耕田でした。琵琶湖東岸の愛東町の積極的な協力もあり、地域の人たちも参加して、昔ながらの菜の花栽培が始まったのです。

こうしてリサイクルの小さな輪が、地域の生活や産業を巻き込んだ大きな循環の輪に発展ったのです。休耕田に菜の花を植えて収穫した菜種は搾油して菜種油にする。その菜種油は料理・学校給食に用いて、搾油時に出た油かすは飼料や肥料に、そして廃食油（使い古しの食用油）は回収してせっけんや軽油代替燃料にリサイクルする。これが「菜の花プロジェクト資源巡回リサイクル」と呼ばれています。

重要なのはこの取り組みが「地域」を単位とした「持続可能な社会」を目指している点にあります。この菜の花ネットワークは、今では約４０もの都道府県、１００もの地域に広がり、２００１年からは毎年、その年々の主催地で「菜の花サミット」が開催されるようになりました。

静岡県トラック協会では同県大東町の農家に菜種栽培を依頼してその全量を買い上げ、ＢＤＦ（バイオ・ディーゼル・フューエル）を軽油に代わる燃料として、実験事業に取り組んでいます。さらに重要なことは、この取り組みを「消費者が支持する」ということです。中小のトラック業界は大手運送業に顧客を奪われとても厳しい状況にあります。ところがＢＤＦを使用し、地球にやさしい事業を行っていると訴えることで、それに賛同し、価値を知る自覚的消費者からの注文が増えるのです。「自覚せる消費者」が自発的に自分達独自のマーケットをそのものを生み出していくのです。

こうして始まった「菜の花プロジェクト」は持続可能な「行き続ける社会」を作りだす世界に誇るべき「日本モデル」といえます。ライスアイランドは、菜種だけでなく、穀物や大豆といった日本人にとって大切な馴染み深い食糧の地域自給率回復に支えるため、「農業」と「企業」の産業連携にまで取り組んでいこうとなってきます。

ライスアイランドは菜種・ひまわりの種の供給から、栽培指導・搾油そして販売(廃油回収は販売店頭)までの支援体制を構想しています